

近代ヨーロッパ・アメリカ文学史

## 近代ヨーロッパ・アメリカ文学史

---

昭和41年4月1日 初版印刷  
昭和41年4月10日 初版発行

¥ 2,900

訳 者 小 林 正

発 行 者 竹 下 み な

印刷所 江戸川印刷株式会社  
製本所 株式会社 小林製本

発 行 所 株式 評 論 社  
会 社

東京都千代田区神田神保町 2 / 16

電話代表(265) 1961

振替東京 7294

---

落丁・乱丁本は本社にてお取替え致します。

(A-1)

## 原著者のまえがき

この著書は、わたくしが一九二五年に出版した『近代ヨーロッパ文学史概説』<sup>\*</sup>を基としている。この『概説』は数年このかた絶版になっているが、フランスならびに諸外国で好評を受け、スウェーデン語、英語、セルビア語、スペイン語に翻訳され、読者ことに学生諸君から、新しい形にして、この著書をさらにくわしく、現代まで説き及ぼしてもらいたいという要望を受けた。そこで、わたくしは近代文学の新しい総合的な一覧表の作成を思い立ち、同じ構想のもとに、前の著書の主な特徴や思想はもちろん、さらにある程度の文章を再び取りあげ、前の著書の初歩的な説きかたを改め、周知と考えられる部分はさらに要約し、さらに広い範囲の、完全なものとし、国際的な文学関係の観点をいっそう明確にし、比較文学の分野で十五年間だけさらにふえた読書と仕事の成果を利用しようと考えた。こうして、わたくしは今度は、総合的に、しかし明確に、作家や作品名や年代を十分に挿入して、十六世紀から二十世紀に至るヨーロッパ文学の全体的な発展を要約しようとした。心かけた。

\* *Précis d'Histoire littéraire de l'Europe depuis la Renaissance*, Paris, Alcan, 1925.

採用した方法の点でも、プランの立てかたの点でも、この著書は、ヨーロッパ文学または世界文学総覧と称して、各国の文学を個々に研究し、国際文学史ではなくて、各国文学史を並べているような、いずれの著書とも根

本的に違うものである。各章はそれぞれ数カ国を包んでいるし、作家は系統もしくは類似点で一括されている。わたくしは厳密な意味で、国際的な、また公平な見地に立った。諸国民、各国語を通じて、伝統・影響・好み・思潮・芸術形式を追究し、あわせて、お互いに未知な作家同士のあいだに、思想あるいは文体の同じ傾向が生んだ、多くの明白な同時的現象を指摘するように心がけた。

この著書では、全ヨーロッパ——近年まで回教圏に属していたトルコを除く——および、アメリカの主要な作家が取り上げられている。小国すなわち文学的にはごく最近に登場してきたような国々、言語的にも文学的にも独自性を発揮した地方、高い芸術的価値に到達した方言を使用する作家、十五世紀から十八世紀にかけて、ラテン語で書いたために、あらゆる近代文学史からのけものにされてきた代表的な作家に、正当な地位を与え、ことに留意した。できるかぎりわたくしの執筆していた時まで論及した。このプログラムが膨大で、与えられた紙面が限られていたため、わたくしはきわめて簡潔な叙述をし、あらゆる方法によって紙面を活用するよりしかたがなかった。伝記的な事実は最少限にとどめ、作品についても、とりわけ作者がきわめて有名な場合には、主要な作品を挙げるだけにした。この種の概説では、いつでも、作家名や作品名を集めると、散漫な印象を与える。これを少なくするために、わたくしはしばしば、例として作家を引用しないで、細部的な傾向を要約して示した。すくなくとも一九〇〇年までは、わたくしの監修で最近出版された『近代文学年表』<sup>\*</sup>を使えば、以上の指摘を補うことができよう。わたくしは国際的な時代の一般的特性、文学形式の発展、文学的影響および関係に、できるかぎりの余地を与えて、読者の要望に答えたつもりである。

\* *Répertoire chronologique des littératures modernes*, publié par la Commission Internationale d'Histoire littéraire moderne, sous la direction de P. Van Tieghem, Paris, Droz, 1937.

このようにして三十五カ国語または文学的方言で表現され、三十七の違った国民に属する、一千四百名近くの作家の作品と行動とを要約するために、きわめて多くの総合的な著作、特殊な研究、専門的な論文に、とりわけ直接わたくしの取り扱うことのできなかった文学について、頼るよりしかたがなかった。わたくしはそれらの結論の要点をこの著書にとり入れることにつとめた。したがって、一行の裏にはひとつの論文があり、ときにはひとつの著書がある。また、わたくしは各国の友人ならびに同僚が好意的に提供してくれた、口頭による忠告または情報に負うところが多い。しかし、きわめて伝統が古く、またきわめて輝かしい、四カ国または五カ国の文学の多くの作家については、ずっと前からこれらの作家の作品を読み、これにじかに接したことが、とくにわたくしの所論を作りあげたのである。したがって、おそらく、この著書が、愛情と感謝にもとづいて、古くから書物に親しんだことの所産であることはわかってもらえよう。

ブロン（セーヌ・エ・マルヌ）、一九三九年七月

## 目次

原著者まえがき

### 第一編 ルネサンス時代

#### 第一章 ルネサンスの文学

文学のルネサンス——イタリアにおけるルネサンスの先駆者 ユマニスト——知的・社会的環境——ルネサンス文学の一般的特性——イタリアにおけるルネサンス イタリア趣味——その他の諸国文学におけるルネサンス

#### 第二章 抒情詩

ペトラルカとペトラルカ趣味——イタリアにおけるルネサンス抒情詩の初期——ヨーロッパ詩歌におけるイタリアの影響のはじまり——ラテン語の抒情詩——宗教的または道徳的抒情詩——ロンサルとブレイヤッド派——十六世紀末の抒情詩 コハノフスキ——マリーノ趣味、ゴンゴラ趣味、コンセプティスモ、ユーフュイーズ趣味、プレシオジテ——ルネサンス末期の抒情詩人

#### 第三章 叙事詩

近代叙事詩の起源 騎士道の叙事詩 アリオスト——正規の叙事詩 カモーンイス・イル・タッソ——神話的・寓意的叙事詩 スペンサー——キリスト教的叙事詩 ミルトン

第四章 コントと小説<sup>ロマン</sup>..... 四

ボッカッチョ 初期のコント作家と小説家——十六世紀のイタリアおよびフランスのコント作家——騎士道小説 『アマデウス』——ラブレ——田園小説——ピカロ小説——セルバンテス——風俗図絵——英雄的恋愛小説——フランスにおける写実小説

第五章 自<sup>ド</sup>由<sup>ラム・リーブル</sup>劇..... 五

近代演劇の起源——スペイン・ポルトガル劇の初期——イギリス劇の初期——ドラマ風田園劇——イギリス劇——シェイクスピア——シェイクスピアと同時代の作家および後継者——スペインの「コメディアー——ローベ・デ・ベーガ——ローベ・デ・ベーガと同時代の作家および後継者——カルデロン——オランダの自由劇

第六章 歴史家と政論家、宗教的作家と人生批評家<sup>モラリスト</sup>..... 六

まじめな散文 エラスムス——宮廷人と政治家 初期の歴史家 マキアヴェッリ——種の政論家・人生批評家——その他の歴史家 備忘録と諷刺文——ルター 俗語訳聖書カルヴァン——種々の宗教的作家——モンテーニュ——その他の人生批評家と哲学者コメニウス

第二編 古典主義時代..... 七

第一章 古典主義文学..... 八

古典主義時代 社会的環境と道徳的環境——古典主義文学の一般的特性——二つの流れ、

伝統と新しさ——時期と文学形式——各国文学における古典主義時代 フランスの指導的役割

## 第二章

### 悲

#### 劇

古典主義悲劇の起源 イタリアにおけるその台頭——宗教悲劇——スペイン、イギリス、フランスにおける悲劇の台頭——悲喜劇——古典主義悲劇の一般的特性——コルネイユ——コルネイユの同時代作家とその後継者——十七世紀におけるオランダ悲劇、ドイツ悲劇 フォンデル——ラシーヌ——ラシーヌ以後のフランス悲劇——イギリス悲劇 東欧・北欧の十八世紀悲劇——十八世紀イタリア悲劇 アルフィエーリ

## 第三章

### 喜

#### 劇

古典主義喜劇の起源と特性——十六世紀のイタリア喜劇——モリエール以前のフランス喜劇 同時代の主要な喜劇——モリエール——王政復古時代のイギリス喜劇——ホルベール——モリエール以後のフランスにおける喜劇 マリヴォー——感傷喜劇と正喜劇——十八世紀における喜劇の引続き シェリダン ゴルドーニ ボーマルシェ

## 第四章

### 詩

#### 歌

古典主義詩歌の一般的特性——ボワロー以前の諷刺詩 レニエ——マレルブとその一派——滑稽英雄詩、道化詩——ラ・フォンテーヌ——ボワロー——イギリス詩歌 ドライデン ポープ——十八世紀のフランス詩歌——イタリア語・スペイン語・ポルトガル語の詩歌 バリーニ モンティ——北欧・東欧の詩歌 ヴィーラント——叙景詩——ヘレニスム ヘルダーリーン シュニエ フォスコロ



第五章 宗教的作家、人生批評家、各種の散文作家……………一五

古典主義散文 フランスにおける初期の古典主義散文作家——パスカル ボスュエ フェ  
ヌロン——その他の説教家と宗教的作家——フランスの人生批評家 ラ・ブリュイエー  
ル——スウィフト——『スペクテイター』とその模倣——書簡と備忘録 セヴィニエ 夫  
人 サン・シモン

第六章 啓蒙時代の哲学者……………一七

十八世紀の哲學的精神と散文 初期——モンテスキュー——ヴォルテール——デイドロ  
百科辭典作家——ルソー——他の諸国における啓蒙時代 レッシング——十八世紀に  
おけるその他の歴史家、学者、批評家、雄弁家

第七章 十八世紀小説……………一八

新小説の登場 デフォー プレヴォー——リチャードソン——フィールディング——スター  
ン——その他のイギリス小説家——『新エロイズ』 『ヴェールテル』 感傷的ヴェール  
テルふう小説——種々の小説

第八章 浪漫主義前派……………一九

浪漫主義前派の特性——初期のイギリス浪漫主義前派 ヤング グレイ——ドイツの詩  
歌復興 クロップシュツットク ヘルダー——後期のイギリス浪漫主義前派 クーパー  
バーンズ——ゲーテ——シラー——市民劇——デンマーク・スウェーデンの浪漫主義前  
派——諸浪漫主義前派 ベルナルダン・ド・サン・ピエール ビルデルディク

第三編 近代 浪漫主義時代……………三二

第一章 近代文学 浪漫主義時代……………三二

文学における近代とその時代区分——読者層と作家——近代文学の一般的特性——近代における各国文学——浪漫主義時代の限界——浪漫主義の起源——浪漫主義の諸要素と諸特性——各国文学における浪漫主義

第二章 政治的・宗教的作家、エッセイスト、歴史家、批評家……………三元

浪漫主義時代の思想的散文——スタール夫人——シャトーブリアン——エッセイストと風俗描写作家——論客と使徒——カーライル エマソン——歴史家 ミシュレー——文学批評家と各種の散文作家

第三章 詩 歌……………三二

浪漫派詩歌の諸形式と詩人の諸世代——イギリス浪漫派詩人第一代 ワーズワース コールリッジ——ドイツ浪漫派詩人——第一代浪漫派の諸々の詩人——スカンジナヴィア詩歌 ウェルゲラン テグネル——バイロンとバイロン趣味 シュリー キーツ——イタリア・スペインの浪漫派詩歌 マンゾーニ エスプロンセーダー——ラマルチーヌ——ポーランド詩歌 ミツキエヴィツチ——ロシア詩歌 プーシキン——ヴィーニ—レオパルディ—レーナウ——ヴィクトル・ユゴー——第二代浪漫派の諸々の詩人——ミユツセその他のフランス浪漫派詩人——第三代浪漫派の諸々の詩人 ペテーフイ——浪漫派詩人と同時代の詩人 リュネベリ

第四章 演劇……………二七五

一般的特性——ドイツにおける浪漫派戯曲 クライスト グリルバルツァー——各国文学における浪漫派戯曲——イタリヤ・フランスにおける歴史劇——フランス歴史劇の影響による歴史劇——喜劇

第五章 小説……………二八六

近代における小説、浪漫主義時代の小説——浪漫派小説 ジョルジュ・サンド——ウォルター・スコットと歴史小説——冒險小説と怪奇小説 ホフマン ボー——スタンダール メリメ バルザック

第四編 近代 写実主義時代……………三〇一

第一章 写実主義時代の文学……………三〇一

写実主義時代の限界——文学における写実主義の起源——写実主義の一般的特性と諸相——諸々の文学形式と傾向——写実主義時代の諸国文学

第二章 歴史家、批評家、人生批評家、各種の散文作家……………三二一

一般的特性 歴史家——サント・ブーヴとその外国の弟子——美学者と美術批評家 ラスキーン——テーム ルナン——その他の哲学者と人生批評家 ニーチェ——その他の文学批評家と文学史家 ブランデス——種々の論客と散文作家

### 第三章 詩

歌

一般的特性——国民的・政治的・社会的抒情詩 カルドウツチ ホイットマン——哲学的詩歌——叙事詩 テニソン 『諸世紀の伝説』 ルコント・ド・リール ブラウニング リュドベリ——国民的叙事詩 叙事詩的譚詩 アラニユ——新興文学または復興文学における国民的もしくは地方的詩歌 ベルダゲール ミストラル——感傷的・個人的詩歌——フランス高踏派の先駆者 高踏派——ボードレール ヴェルレーヌ ランボー マラルメ——英語の諸々の詩人——中欧・北欧の諸々の詩人 リーリエンクロン ドラックマン——新ラテン系言語の諸々の詩人 パスコリ ダヌンツィオ——スラヴおよびダニユープ沿岸諸国の諸々の詩人 ヴルフリツキー ヴァーゾフ エミネスク——方言の詩歌

### 第四章 演

劇

写実主義時代の演劇——悲劇と史劇 ヘッベル——オージエ デュマ・フィス——イブセン ビョルンソン ストリンベリ——その他のヨーロッパ諸国の喜劇と近代劇 オストロフスキー カラジャレ——写実主義演劇・自然主義演劇

### 第五章

歴史小説と異国小説、風俗小説と心理解剖小説

写実主義時代の小説——歴史小説 シェンキエヴィツチ——異国・冒險小説 ステイヴンソン コンラッド ロチ キップリング——ヴィクトリア朝のイギリス小説家 ディケンズ サツカリ——ジョージ・エリオット ヘンリ・ジェイムズ——ロシア小説家 ゴーゴリ トウルゲーネフ ドストイェーフスキー トルストイ——スペイン小説家——

フランスの心理解剖小説 ブールジェ——アナトール・フランス パレス——イタリア  
小説家——三人の民族の小説家——その他の小説家

## 第六章 農村小説、社会小説、写実小説

一般的特性——農村小説 ゴットヘルフ ケラー ヴェルガ ハーディ——社会小説——  
フローベールとフランス写実小説 ドーデー——ゾラと自然主義小説——イタリヤ・  
イギリス・オランダ・ドイツにおける写実小説——スカンジナビア諸国とフィンラン  
ドの写実小説 ヤコブセン バング キヴィ——その他の諸国文学における写実小説  
エサ・デ・ケイロス——短篇小説とコント モーパッサン チェーホフ

## 第五編 近代 理想主義的反動から今日まで

### 第一章 最近五十年間の文学

新時代の出発点——理想主義的反動——文学の一般的特性——繼起的または平行的な主  
要運動——各国文学の役割

### 第二章 精神的指導者

思想的散文の諸形式——スペイン思想の復活——哲学者・人生批評家・エッセイスト  
ベルグソン——伝統主義的・カトリック的論客——文学史と文学批評 クローチュ——  
各種の散文作家 ジッド

### 第三章 詩

歌……………

四九

一般的特性——フランス象徴派とその後継者 ヴェラーレン ヴァレリー——オランダの一八八〇年派 その他のオランダ詩人——スペイン語系近代派およびその他の詩人 ダリョー ヒメーネス カタルーニャ語詩人——ドイツ詩人 ゲオルゲ リルケ——スカンジナヴィア諸国の詩歌復興 フレーディング——フィンランドおよびバルト海沿岸諸国の詩人——ハンガリア、チェッコ、ポーランドの詩人 アディ プレジナー——ルーマニア、ユーゴスラヴィア、ブルガリアの詩人 イリッチ スラヴェイコフ——英語系詩人 イエーツ 「新詩歌」 T・S・エリオット——ロシア象徴派とその後継者 ブローク——イタリア、ポルトガル、ギリシアの詩人 パラマス——女流恋愛詩人

### 第四章 演

劇……………

五三

一般的特性——歴史劇と伝説劇 ヴィスビヤンスキ——象徴劇と神秘劇 メーテルラン ククローデル——ハウプトマン——フランスにおける問題劇と思想劇——社会劇——感情分析劇——個性の心理劇 ビランデッロ——アイルランド劇の創始——イギリス喜劇の復興 ショー——フランスおよびその他の国々における喜劇——各種の劇作家 プシプシエフスキ シロドゥー

### 第五章

散文のフィクション……………

五四

散文のフィクションの新しい特性——歴史小説 シグリ・ウンセツト 伝記——農村小説 レイモント ラミューズ ジョノ——連作小説 ロラン プルースト ゴールズワージー——小説の諸々の新形式——フランスの小説家——イタリア、スペインの小説家

——英語系の小説家 ウェルズ ハックスリー——オランダ、ドイツの小説家——スカ  
 ンジナヴィア諸国の小説家 ハムスン セルマ・ラーゲルレーヴ——フィンランド、バ  
 ルト海沿岸諸国の小説家——ロシアの小説家 ゴーリキー——ポーランド、チェッコ、  
 ハンガリアの小説家——その他の諸国の小説家

訳者あとがき ..... 五九五

## 総 索 引

作家名索引 ..... 1

作品名索引 ..... 25

近代ヨーロッパ・アメリカ文学史



